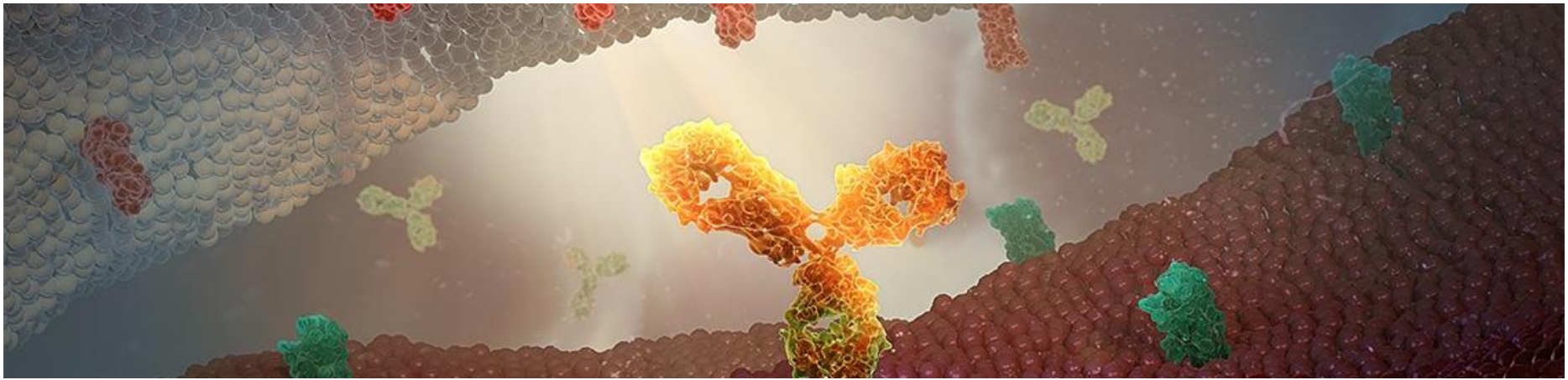
肺がん患者さんの不安・抑うつに関する調査

アストラゼネカ株式会社

2018年5月



資材番号：JP 11448

調査概要

■調査目的: 肺がん患者さんの治療における不安・心情について、治療・ステージ・治療時期の観点から比較し、ステージⅢの肺がん患者さんの心理的QOLを理解するとともに、他のがん種と比較することで肺がん特有の傾向やアンメットニーズを把握する。

■ 調査期間: 2017年12月15日～2018年1月28日

■ 調査方法: インターネット調査

■ 対 象 者: 国内死亡率上位の3つのがん（肺がん、胃がん、大腸がん）のいずれかの診断を過去5年以内に受けた患者さん 計 517名(肺がん214名、胃がん131名、大腸がん172名）

■ 監　修: 髙山 浩一 先生（京都府立医科大学 呼吸器内科学 教授）

※ この調査資料はプレス用として作成されたものです。
調査結果の二次利用についてはコーポレートアフェアーズ統括部までお問合せください。

資材番号:JP 11448

調査結果まとめ

化学放射線療法（CRT）を受けた肺がん患者さんは、薬物療法を受けた再発またはより病状の進行した肺がん患者さんよりもより強い不安・抑うつを経験している。がん患者さんは精神的ストレスを受けるリスクが高いが、その中でもCRTを受けたステージⅢの肺がん患者さんは、不安を強く感じている傾向があり、心理的QOLが非常に低い治療グループと言える。

- CRTを受けた肺がん患者さんは、薬物療法を受けた肺がん患者さんと比較して高いHADSスコアとなり、特に不安の度合いが高いことが確認された
- CRTを受けた肺がん患者さんは、治療中の不安に関する多くの質問において薬物療法を受けた肺がん患者さんより高い割合で不安を示しており、より強い精神的ストレスを受けている傾向がある
- ステージⅢの肺がん患者さんは、ステージⅢの胃がん・大腸がん患者さんと比較して、「不安を和らげるために、何らかの治療を受けたい」と感じる患者さんの割合が高かった
- ステージⅢの肺がん患者さんは「がんの悪化」に対する不安を強く感じており、その不安度合いは、より病状の進んだステージⅣの肺がん患者さんとほぼ同等であった

資材番号：JP 11448

監修：髙山浩一先生のコメント

京都府立医科大学
大学院医学研究科
呼吸器内科学　教授

CRTを受けたステージⅢの肺がん患者さんは、より病状の進行した肺がん患者さんと同等もしくはそれ以上の不安や精神的ストレスを感じていることが今回の調査によって明らかとなりました。

ステージⅢの肺がん患者さんがこのように大きな不安を抱えてしまう背景には、根治できる可能性が患者さんに認識されていないこと、また治療に伴う副作用に加えて、CRT後に再発を抑制できる有効な治療法がないという不安が影響していると考えられます。

治療目的・病状をきちんと理解してもらえるよう、より丁寧な説明を医療従事者も心掛ける必要があるとともに、ステージⅢの肺がん患者さんは、現在の経過観察に代わる治療法を待ち望んでいることがうかがえます。

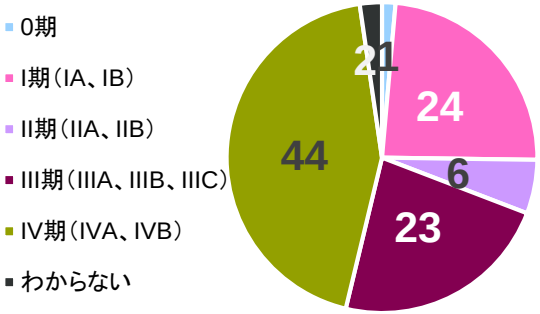
資材番号：JP 11448

調査結果詳細

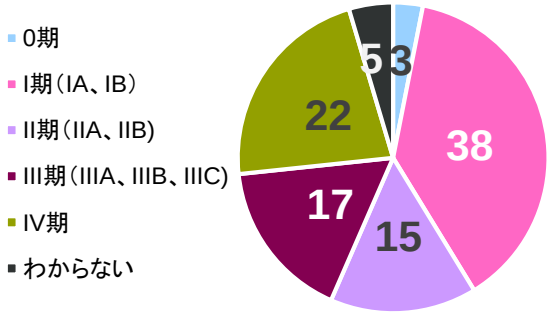
対象者情報

ステージ

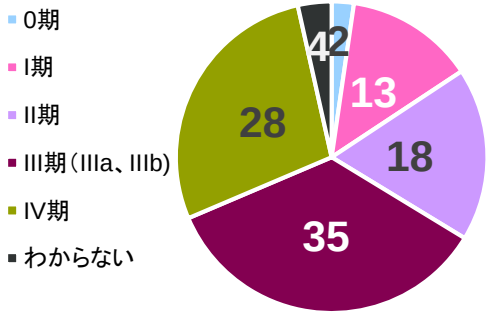
肺がん
(n=214)



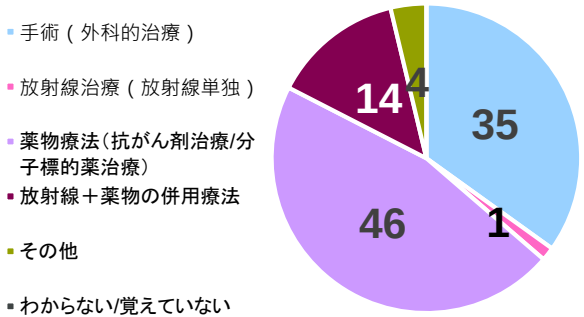
胃がん
(n=131)

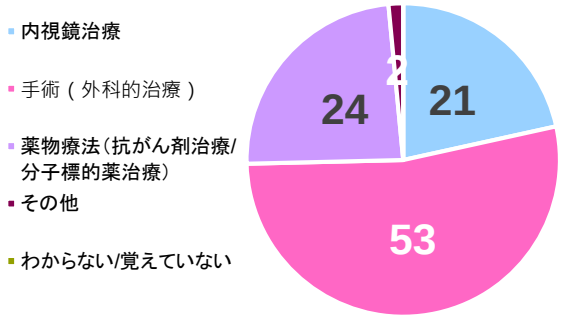


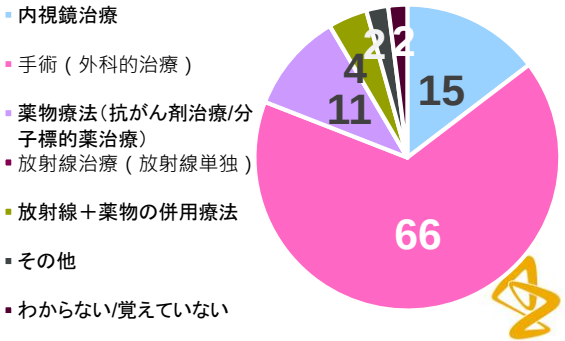
大腸がん
(n=172)



1回目治療内容





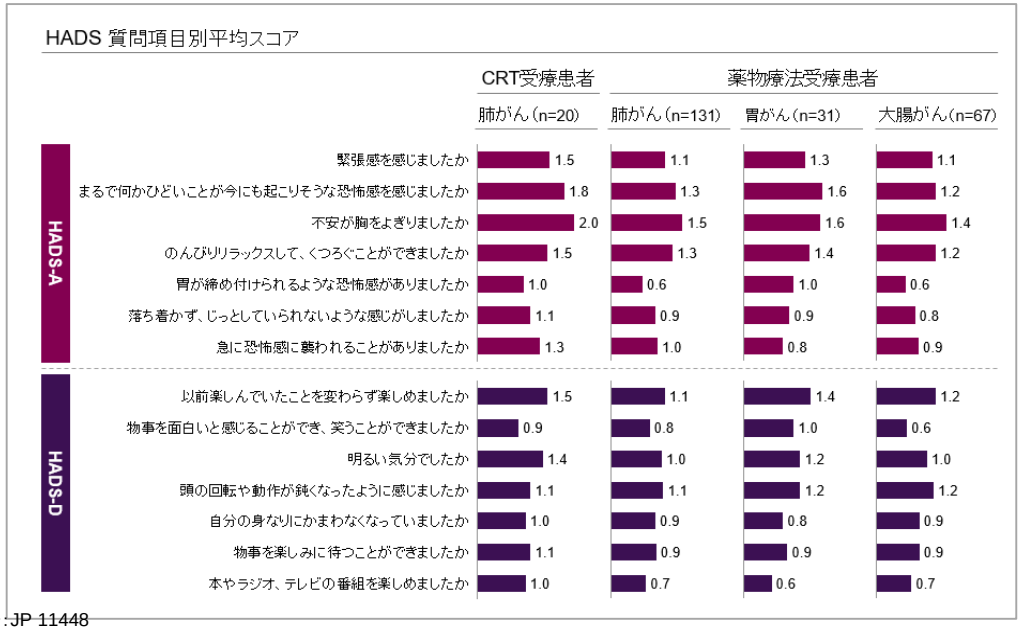


資材番号：JP 11448

がん患者さんの不安・抑うつの度合い（HADSスコア）

【HADSスコア】
身体的疾患を有する患者さんの精神状況（不安・抑うつ）を計測する尺度。不安と抑うつに関する質問（各7項目、全14項目）を自己記入形式で回答してもらい、回答に応じて0～3点が加算され、その合計点で不安・抑うつの度合いを評価する。1983年にA.S. Zigmondらによって作成され、自己評価ができるため、信頼性の高いテストの1つと言われている。

Q9. 次に挙げてある 14 の設問を読み、それぞれについて 4 つの答えのうち、あなたのこの 1 週間のご様子に最も近いものをお選びください。それぞれの設問に長く時間をかけて考える必要はありません。パッとまず頭に浮かんだ答えの方が正しいことが多いからです。



得点は、高い方が不安と抑うつが強いことを示します。
不安に関する7項目と抑うつに関する7項目の得点をそれぞれ合計して、その度合いを評価します。

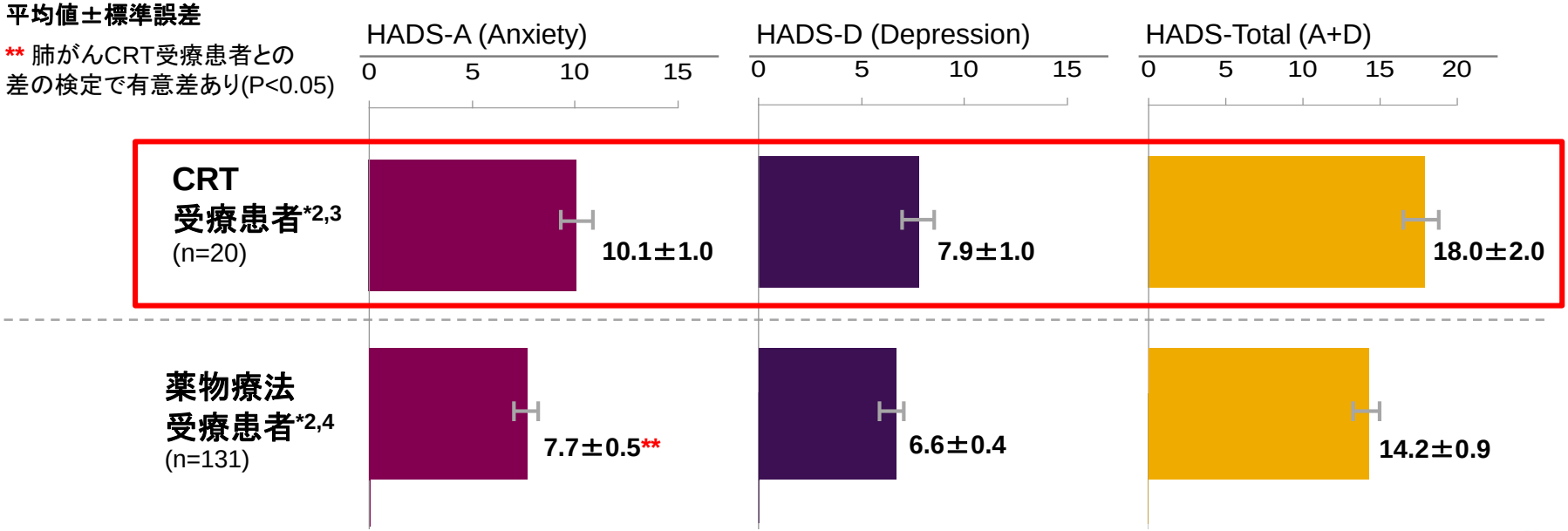
0～7点：不安または抑うつ　・・・　なし
8～10点：不安または抑うつ　・・・　疑い
11点以上：不安または抑うつ　・・・　あり

資材番号：JP 11448

肺がんCRT受療患者と薬物療法受療患者のHADSスコア

化学放射線療法（CRT）を受けた患者のHADS スコアの平均値は、いずれも薬物治療を受けた患者と比べて高く、特に不安（HADS-A)の度合いは有意に高かった

HADS Score*1の比較



*1: HADS scoreは、Anxiety, Depressionの各項目について回答者ごとにスコアを算出し、該当する患者の平均値を記載した
*2: 各治療の治療中、または各治療直後の経過観察中の患者を「受療患者」として分析対象に含めた。
*3: CRT受療患者（20名）の内訳は、治療中患者7名, 治療後経過観察中患者13名であった
*4: 薬物療法受療患者（131名）の内訳は、治療中患者106名, 治療後経過観察中患者25名であった

0～7点：不安または抑うつ ・・・ なし
8～10点：不安または抑うつ ・・・ 疑い
11点以上：不安または抑うつ ・・・ あり

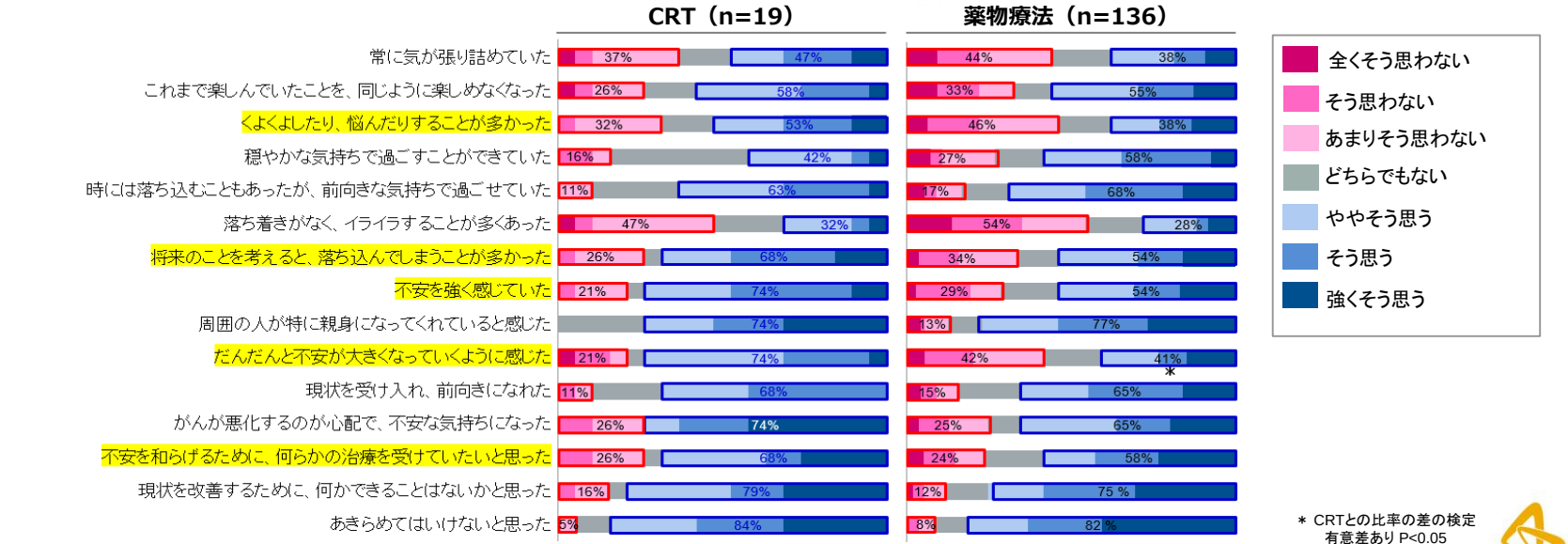
資材番号：JP 11448

肺がん患者さんの治療時の気持ちについて（治療別の比較：CRT vs 薬物療法）

CRTを受けた肺がん患者さんは薬物療法を受けた肺がん患者さんと比較して、高い割合でその不安を示しており、より強い精神的ストレスを受けている傾向がある

肺がん患者でのCRT治療時・薬物療法治療時の気持ち（直近治療・1回前治療の合計）*1,2

Q13（直近1回前）&15（直近） 肺がんの治療（直近の治療/直近の1回前の治療）を受けていた期間のお気持ちについてお伺いします。
下記の質問について、当時のご自身のお気持ちや状況に最も近いものをお選びください。



＊ CRTとの比率の差の検定
有意差あり P<0.05

*1: 直近の治療から遡って過去2回以内にCRT治療を受けた患者および直近の治療で薬物療法を受けた患者を対象に、当時の気持ちを遡って確認
*2: CRTについては、初回診断時Stage IIIの患者のみを分析対象とし、薬物療法の場合は再発の場合も想定されるため、初回診断時のStageを問わず集計対象とした

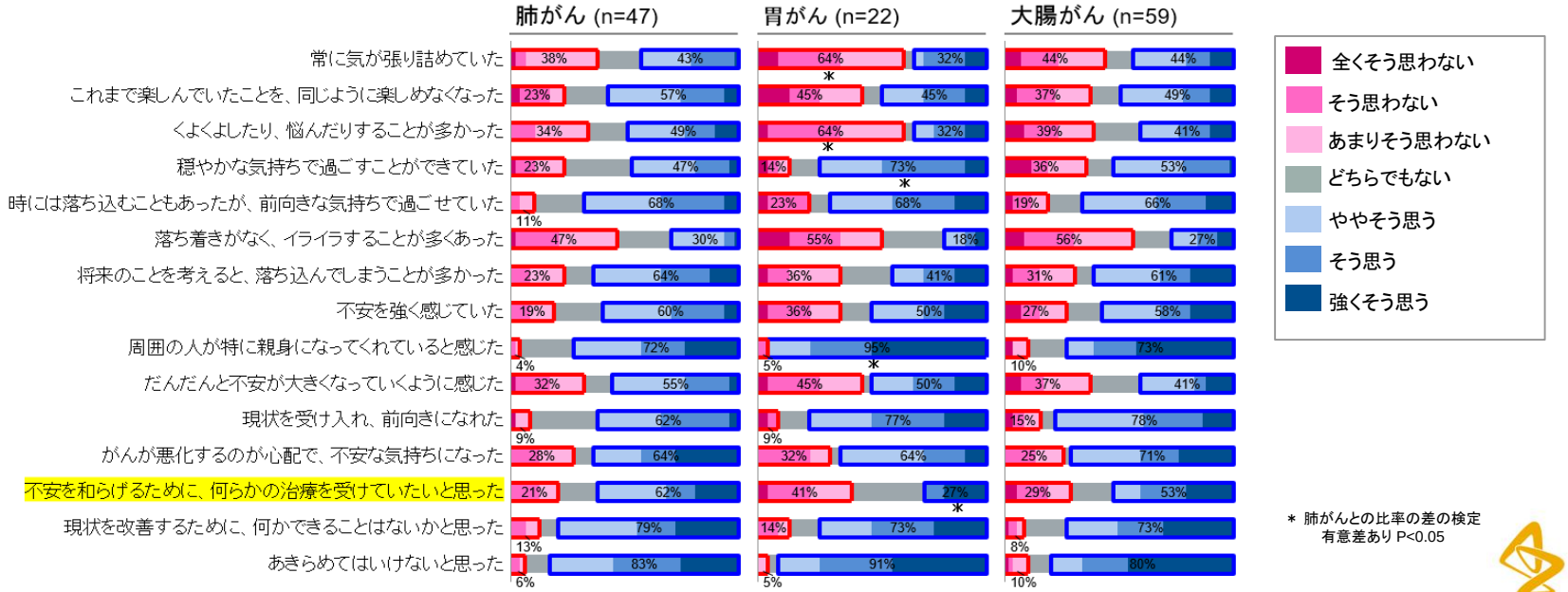
資材番号：JP 11448

ステージⅢがん患者さんの治療時の気持ちについて（部位別：肺がん・胃がん・大腸がん）

「不安を和らげるために、何らかの治療を受けていたいと思った」と回答した患者さんの割合は肺がんが一番高かった。

肺がん・胃がん・大腸がん ステージⅢ患者での治療時の気持ち（直近治療のみ）*1

Q13（肺がん）,22（胃がん）,29（大腸がん） がんの治療（直近の治療）を受けていた期間のお気持ちについてお伺いします。
下記の質問について、当時のご自身のお気持ちや状況に最も近いものをお選びください。



＊ 肺がんとの比率の差の検定
有意差あり P<0.05

*1:何らかの治療を受けた全患者に対して、最も直近で受けた治療時の気持ちを遡って確認

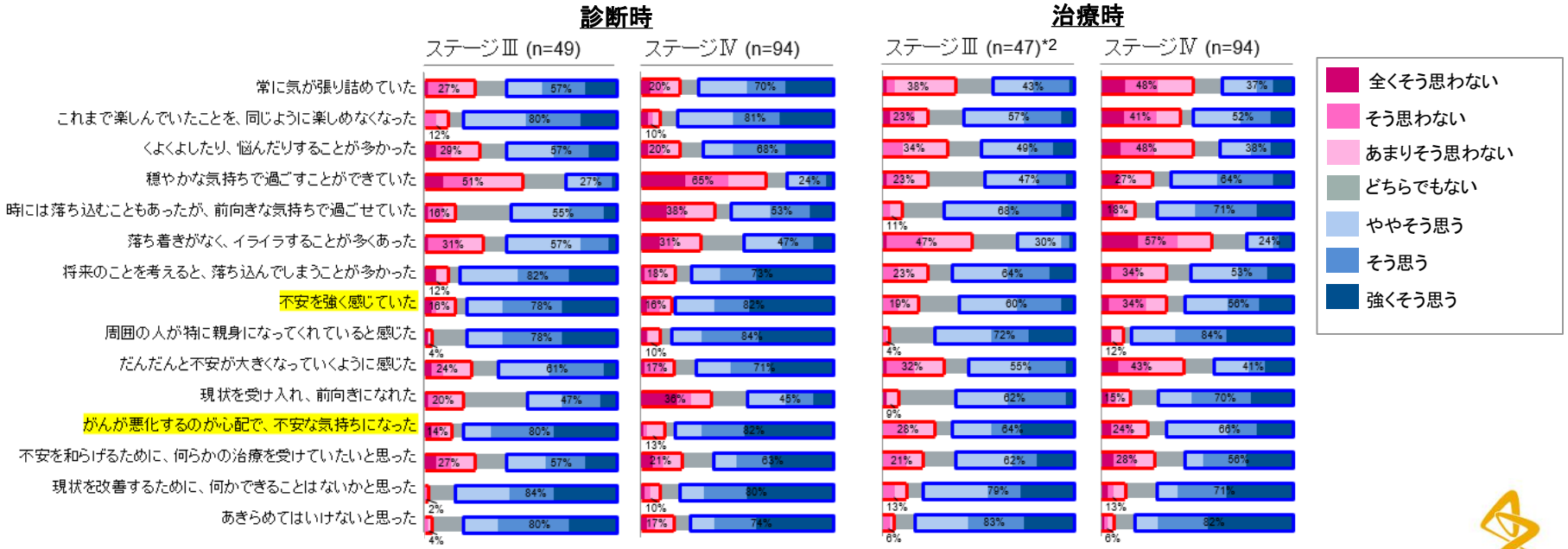
資材番号：JP 11448

肺がん患者さんの診断時および治療時の気持ちについて（ステージ別）

ステージⅢの肺がん患者さんの「不安な気持ち」は、診断時および治療時ともに、より病状が進行しているステージⅣの肺がん患者さんとほぼ同じであった

肺がん、ステージⅢとステージⅣの患者での診断時（想起）*1・治療時の気持ち（直近治療のみ）*1

Q11（診断時）&15（直近治療）　肺がんと診断されてから、治療を開始するまで／肺がんの治療（直近の治療）を受けていた期間のお気持ちについてお伺いします。下記の質問について、当時のご自身のお気持ちや状況に最も近いものをお選びください。



*1:肺がん治療を受けた患者さんに対して、診断時および最も直近で受けた治療時の気持ちを遡って確認
*2:診断後、治療を受けていない患者さんは対象から除外

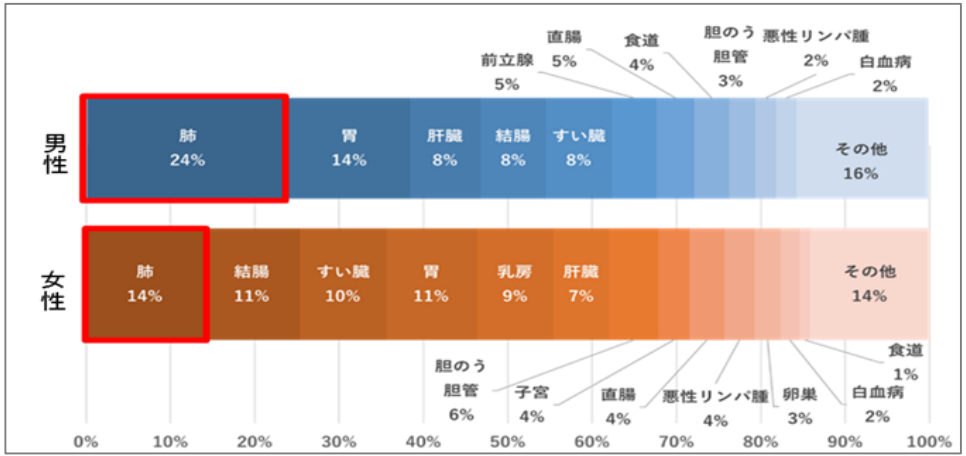
資材番号:JP 11448

補足資料

肺がんについて

2016年に肺がんで死亡した人は73,838人（男性：52,430人、女性：21,408　人）でした。他のがん種と比較すると、肺がんの割合は、男性が全体の25%で、女性は全体の14%を占め、ともに第1位となっています[1]。また、肺がんの予後は他のがん種と比較して不良で、5年生存率は31.9%と大幅に低くなっています[2]。

部位別がん死亡者数の割合（2016年）



厚生労働省「平成28年人口動態統計（確定数）の概況」
※上記グラフは大腸を直腸と結腸に細分化したデータで作成

部位	5年相対生存率（%）
全がん	62.1
前立腺	97.5
胃	64.6
肺	31.9
乳房	91.1
結腸	71.6
直腸	70.1
肝臓	32.6

財団法人　がん研究振興財団「がんの統計’17」

参考資料：1. 厚生労働省「平成28年人口動態統計（確定数）の概況」 http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei16/dl/00_all.pdf（2017年12月アクセス時）
2. 公益財団法人　がん研究振興財団「がんの統計’17」 https://ganjoho.jp/data/reg_stat/statistics/brochure/2017/cancer_statistics_2017_date_J.pdf （2018年5月アクセス時）

資材番号：JP 11448

ステージⅢの肺がんについて

ステージⅢの肺がん患者さんは全体の21.5%[3]を占め、5年生存率は、同ステージの胃がん、大腸がんと比較して、大幅に低いのが現状です。治療は根治を目的に行われ、切除が可能な症例においては外科手術、切除が出来ない（切除不能）の症例では化学放射線療法が標準療法となっています。

【がん種別　臨床病期別5年相対生存率】

がん種	ステージ別5年生存率（%）			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
肺がん	81.8	48.4	21.1	4.5
胃がん	97.4	65.0	47.1	7.2
大腸がん	97.6	90.0	84.2	20.2

財団法人　がん研究振興財団「がんの統計’17」

【がん種別ステージⅢの標準治療】

- 肺がん[4]：集学的治療（化学療法、放射線療法、外科手術を必要に応じて組み合わせる）
- 胃がん[5]：定型手術→補助化学療法（進行度によっては、定型手術＋合併切除→補助化学療法）
- 大腸がん[6]：手術→補助化学療法

参考資料: 3. 公益財団法人　がん研究振興財団「がんの統計’17」全国がん（成人病）センター協議会加盟施設で2007～2009年に登録された肺腺癌（10,877人）および肺扁平上皮癌（3,925人）のうち、UI CCステージⅢと病期診断された患者数（それぞれ1, 862人および1, 268人）より、全非小細胞肺癌患者に占めるステージⅢの割合を算出。
4. 日本肺がん学会編「EBMの手法による肺がん診療ガイドライン2017年版」 https://www.haigan.gr.jp/guideline/2017/1/2/170102ju00.html
5. 胃癌治療ガイドライン　第4版、2014年改訂 http://www.jgca.jp/guideline/fourth/category2-a.html#H2-A_2
6. 大腸癌治療ガイドライン　2016年版 http://www.jsccr.jp/guideline/2016/particular.html

資材番号：JP 11448